



子ども大学かわごえ

1. 子ども大学かわごえ（C U K）とは

子どもたちの知性は10歳前後から急速に発達し、生活や自然や社会の諸々の現象につき根源的な疑問“なぜ”を抱きます。この“なぜ”こそ「学び」の源泉で、子どもたちのこの素朴な“なぜ”を解明するため大学教授がやさしく教えるのが子ども大学です。子どもたちが育ち、わが国社会を支えていく未来の世界は高度知識社会で、創造的知性が求められます。子どもの時から大学の知性に触れ、新しい知的世界をのぞき見ることによって、学ぶことの楽しさを体験することは、子どもが夢とロマンを育み、知性を磨く貴重な機会となるはずで、子ども大学かわごえは、地元川越の3大学（東京国際大学、東洋大学、尚美学園大学）の教授たちと連携して平成20年12月に産声を上げました。

2. 子ども大学かわごえ（C U K）の3つの特長

1) 地域の複数の大学（東京国際大学、東洋大学、尚美学園大学）の教員が連携して、小学生に大学レベルの授業をやさしく教える子ども大学は、わが国初の試みです。

2) 子ども大学かわごえの組織の中心はNPO法人子ども大学かわごえで、一般市民、大学教授、小学校教員、産業人、行政職員など地域の各分野からのボランティアが結集して、生徒の募集、大学教室での受講、修了証書の授与等の事務処理を行うと共に、資金的・経営的管理活動を行います。



一般の(公立)成人大学などと違って、子ども大学かわごえは、市民のイニシアティブにより創立された市民立大学であり、“地域の落とし子”といえるでしょう。

3) ドイツでは子ども大学が広く普及していますが、純粋科学的な“なぜ”を追求する「はてな学」が中心です。それに対して、子ども大学かわごえでは、わが国&地域の教育ニーズに応えるため、“いかに”生きるかを学ぶキャリア教育の「生き方学」と、郷土“どこ”を知り、地位活性化に努める「ふるさと学」も教育プログラムに含まれており、子どもたちは「はてな学」「生き方学」「ふるさと学」を学びます。

4. 組織

NPO法人子ども大学かわごえ（C U K）

- 名誉理事 的川泰宣（JAXA名誉教授）
- 理事長 酒井一郎（早稲田大学産業経営研究所特別研究員）
- 学長 遠藤克弥（東京国際大学副学長）
- 常務理事 口元周策（ジャパンタッチラグビー協会理事長）
- 理事 望月 修（東洋大学理工学部教授）
- 理事 矢倉久泰（教育ジャーナリスト）
- 理事 望月智行（川越胃腸病院院長）
- 理事 斉藤信子（元川越市教育委員長）
- 理事 野村和博（川越市立川越第一小学校愛校会長）

理事 石井成人（昭和工業株式会社社長）
理事 糸原恒久（川越蓮馨寺住職、川越観光協会会長）
監事 市川 勤（株じもとのneco取締役）
一般会員 68名（平成24年8月1日現在）

教授陣

上記3大学および他大学の教員や実務家による客員教授（例、ジャーナリスト池上彰氏、JAXA 名誉教授的川泰宣氏など）

後援

埼玉県、埼玉県教育委員会、川越市、川越市教育委員会、鶴ヶ島市教育委員会、川島町教育委員会、川越商工会議所

助成

（財）カメイ社会教育振興財団（仙台市）
（生協）さいたまコープ（埼玉県）
ボーイング社（米国）

協力

埼玉県立川越工業高等学校
川越少年少女合唱団



6．平成20年度実施事業

1) 平成21年3月（第1期20年度）正規授業

3月20日授業

東洋大学 工学部 望月修教授

「なぜ飛行機は空を飛ぶことができるのか？」

東洋大学 工学部 福井吉孝教授

「なぜホテルとさかなは面白いのか？」

3月21日授業

尚美学園大学 総合政策学部 五十子敬子教授

「なぜ人のいのちを奪ってはいけないのか？」

尚美学園大学 総合政策学部 真下英二准教授

「なぜ多数決で決めるのか？」

3月22日授業

東京国際大学 人間社会学部 角山剛教授

「なぜ電車の席はすみから埋まるのか？」

東京国際大学 人間社会学部 大築勇喜嗣教授

「どうしたら10分間でギリシャ神殿を描くことができるか？」

7．平成21年度（第2期）実施事業

1) 正規授業

10月10日 教室 東京国際大学 第1キャンパス

客員教授 池上彰氏

「お金のヒミツ」と「世界地図はひとつ
ではない」

11月7日 教室 女子栄養大学

根岸由紀子准教授

「おいしいもの科学 - じゃがいもとさつまいも - 」

12月6日 教室 東京国際大学 第1キャンパス



- 客員教授 & 俳優 竹本孝之氏 「なぜコミュニケーションは大切か？」
 1月23日 教室 東京国際大学 第2キャンパス
 喜多院 塩入秀知住職 「喜多院と川越」
 川越氷川神社 山田禎久宮司 「川越氷川祭り（川越まつり）と川越」
 2月20日 教室 東京国際大学 第1キャンパス
 東洋大学理工学部 吉野隆准教授 「なぜ八子の巣は6角形か？」
 3月6日 教室 東京国際大学 第1キャンパス
 桜美林大学 馬越恵美子教授 「異文化コミュニケーションを楽しもう！」

2) 特別授業

- 10月31日 会場 川越市立中央図書館
 生涯学習フェスティバルまなびピア参加
 「子ども大学かわごえ教育研究発表会」
 3月13日・14日 会場 川越市内蓮馨寺
 学園祭 “こどもがつくるまち「ミニかわごえ」”



3) 21年度特記事項

- 5月 校旗完成
 10月 校歌完成 伊藤幹翁作曲、
 小室志をり作詞
 12月 冊子『こうして創った子ども大学かわごえ』発行
 12月 授業開始前30分間ホームルーム導入開始

8. 平成22年度（第3期）実施事業

1) 正規授業

- 6月 東洋大学総合情報学部 石原次郎教授 「やってみよう！きみもクリエイターだ」
 7月 尚美学園大学 江頭満正准教授 「オリンピック最終ランナーのヒミツ？」
 9月 早稲田大学産業経営研究所 特別研究員 酒井一郎氏
 「お金はどこから来てどこへ行くの？」
 飯島経営グループ 代表理事 飯島賢二氏
 「なぜ税金を納めなければならないの？」
 10月 富士通株式会社 畠山義彦氏
 「地球環境カードゲーム My Earth で学ぶ生物多様性」
 11月 早稲田大学大学院商学研究科
 池上重輔准教授
 「そばにある国際化：フランスの弁当箱と忍者ナルト」
 12月 客員教授 たいらいさお氏
 （元うたのおにいさん）
 「なるほど！童謡～日本の文化財“童謡”の魅力を再発見～」
 1月 川越環境協会会長 糸原恒久蓮馨寺住職 「川越の観光」
 NPO法人 科学映像館 久米川正好氏 「なぜ歯は生えかわるか？」



2月 客員教授 池上彰氏 「『テレビの見方』について」、「『民主主義国』とはどんな国？」

注：10回の授業の延べ出席者(学生)数は1287人で、平均130人であった。出席率は76%で、欠席の主な理由は学校行事との重複とインフルエンザであった。

2) 特別授業

8月 夏期講座 清水建設技術研究所(理事 清水充氏)&日本科学未来館訪問

3月 学園祭“こどもがつくるまち「ミニかわごえ」” = 3月11日の東日本大震災のため中止

9. 平成23年度実施授業

1) 正規授業

6月 NPO法人「子ども・宇宙・未来の会」会長 「宇宙教育の父」 的川泰宣 博士
「『はやぶさ』と子どもたち」

7月 NPO法人子ども大学かわごえ
事務局次長 松本豊氏
「科学映画と親睦の会」

9月 一般財団法人国際開発センター
三井久明 主任研究員
「世界になぜ豊かな国と貧しい国があるの
だろう？」

10月 東洋大学 理工学部 加藤和則教授
「なぜ薬を飲んだり注射するのか？」

11月 神田外語大学 永井浩 教授
「『平和』ってなんだろう？ノーベル平和賞の受賞者たちのしごと」

12月 前(独)日本原子力研究開発機構
池田要 特別研究員 「原子力発電について考える」

1月 川越胃腸病院 望月智行 病院長
「君は今日からオンリー・ワン小学生~いい学校に入るより、夢を実現する人になれ！」

2月 自由の森学園 元学園長 松井幹夫氏 「トランプゲームで+、-、×のなぞをとく」

3月 客員教授 池上彰氏 「お金が”商品になった”」「世界地図から世界を見る」



2) 特別授業

8月 県立川越工業高校との共同事業
高校生が先生の「ものづくり教室」
会場 同校教室
独立行政法人 造幣局 東京支局(池袋)
訪問 「お金の学習」

11月 富士通(株)環境事業部 畠山義彦氏
「パソコンを分解して学ぶ環境問題」
教室 川越市立川越第一小学校 体育館

3月10日(土)・11日(日) 学園祭
~こどもがつくるまち「ミニかわごえ2012」
会場 川越市内蓮馨寺境内開催



3) 特別事業

埼玉県内で活動している1900のNPO法人の活性化をはかるため埼玉県でNPO大賞奨励事業を制定。活発に活動をしている優れたNPO団体を、県民投票を含む、3回の選考過程を経て選抜し、NPO法人子ども大学かわごえに第2位の優秀賞を授与した。



10. 平成24年度実施授業

1) 正規授業

- 6月 尚美学園大学 松田義幸学長
「ピーターパンの先祖はだれか？」
- 7月 東武タワースカイツリー(株) 吉野誠一 広報宣伝部長
「東京スカイツリーのヒミツ」
- 9月 尚美学園大学 櫻井準也教授
三井久明 主任研究員
「なぜチンパンジーは石器を作れないか？」
- 10月 (株)富士通研究所 安部文隆 工学博士
「夢をかたちに ~スーパーコンピュータの話」
- 11月 大妻女子大学 服部孝彦教授
「英語の楽しみ!学ぶ楽しみ!」
- 12月 信州大学 平野吉直教授
「生きる力を測定しよう!」
- 1月 専修大学 今井雅和教授
「世界と上手に付き合おうーTPPってなあに?」
- 2月 早稲田大学 酒井一郎 特別研究員
「太平洋戦争とは何だったのか?」
- 3月 東京工業大学 池上彰氏
「日本は豊かが貧しいか?」



2) 特別授業

- 8月 JAXA 宇宙航空研究所(つくば) & 森林総合研究所訪問
埼玉県立川越工業高校と共同で“先生が生徒の”ものづくり教室”実施
- 9月 富士通(株)環境事業部 畠山義彦氏 「パソコン分解を通して学ぶ環境問題」
- 10月 ジャパンタッチラグビー協会 理事長 口元周策氏 「タッチラグビー実習」

早稲田大学所沢キャンパス 大堀聡教授 「狭山丘陵の秋を楽しもう！」

11月 「かすみ教室」授業 東洋大学理工学部 菊池謙次助教

「飛行機はなぜ空を飛ぶことができるのか？」

2月 「かすみ教室」授業 子ども大学かわごえ 小林範子客員教授

「川越・ふるさとの魅力を楽しく発信しよう！」



3) 特別事業

博報賞

9月28日博報財団から博報賞(教育活性化部門)を受賞しました。

博報書とは、児童・生徒の「豊かな人間性育成」には子どもたちと日々直接向き合う教育実践者の役割が非常に大きく、児童・生徒に対する日常の教育現場で貢献・努力している学校・団体・教育実践者を表彰することを通して、児童教育の現場を活性化させ、支援することを目的としている賞です。

地域づくり総務大臣表彰

平成24年度地域づくり総務大臣表彰を受けました。

全国各地で、それぞれの地域をより良くしようと頑張る団体、個人を表彰することにより、地域づくりへの情熱や思いを高め、豊かで活力ある地域社会の構築を図ることを目的としている。

表彰理由：

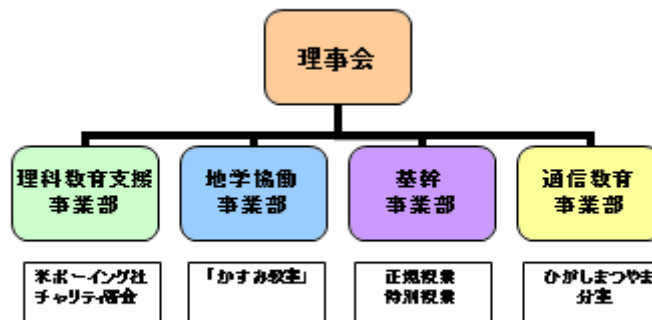
地域の複数の大学の教員や専門家と連携して小学生(4年生から6年生)を対象に創発的な授業を行っている。子どもたちに新しい知的世界への目を開かせ、興味を喚起し、将来の夢を動機づけ・気づきを与え、知的好奇心を刺激することを目的としている。

1.1. 今後の展望

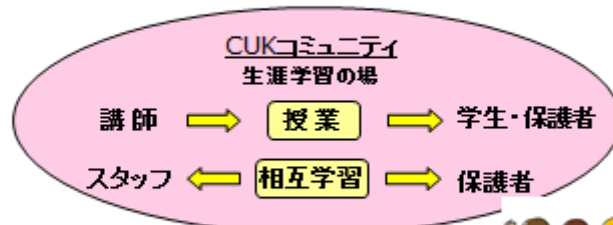
1) 事業部活動の強化

平成24年度4月からC U Kは小規模ながら活動に事業部制を取り入れ、それぞれの活動を強化することにしました。

従来からの教育活動は基幹事業部へ集中しました。そして川越市自治会連合会霞北支会との地学連携事業「かすみ教室」を開設して、C U Kの定員180人の枠以外にさらに50人に対して学習の機会を提供する体制を整え、24年度に3回の授業を行いました。来年度も3回の授業を予定しています。



1. 「かすみ教室」
川越市自治会連合会霞北支会と子ども大学かわごえ(CUK)との地学協働事業
2. 「ひがしまつやま分室」
東松山市学童保育の会との学学協働事業
3. 米ボーイング社チャリティ資金
ボーイング社資金を活用して東洋大学理工学部、川越市教育センター、川越市立川越第一小学校等との協働で初等理科教育を支援



東松山の学童保育には、CUKの会員が勤めており、大勢の学童にCUKの授業の様子を伝えていています。このため東松山学童保育は通信教育事業部の「ひがしまつやま分室」として活動してきましたが、25年1月の授業からインターネットで本校と分室をリアルタイムでつなぎ、ディスタンスラーニングを実施しました。今後CUK教育活動のIT化にはさらに色々な可能性を探していく予定です。

2012年度(1月~12月)から2013年にかけて米ボーイング社から理科教育支援活動のための基金を預かっています。このため川越市内の小学校や教員研修を受け持つ川越教育センターなどと連携して理科実験授業実施のための資金援助を行っています。その他に、CUK自身のテクニカルサポートセンターを設立して川越市内小学校へ出張授業を実施することを計画中です。

このように幅広い活動を実施するにはマンパワーが不足しますので、近隣の高等学校や大学の生徒・学生からボランティアを募ることにします。



2) 地域づくりへの参加

CUK教育3本柱の中の「ふるさと学」は座学で講義を聞くという受け身の学習だけではなく、地域づくりへの参加という実践も学習の目的です。

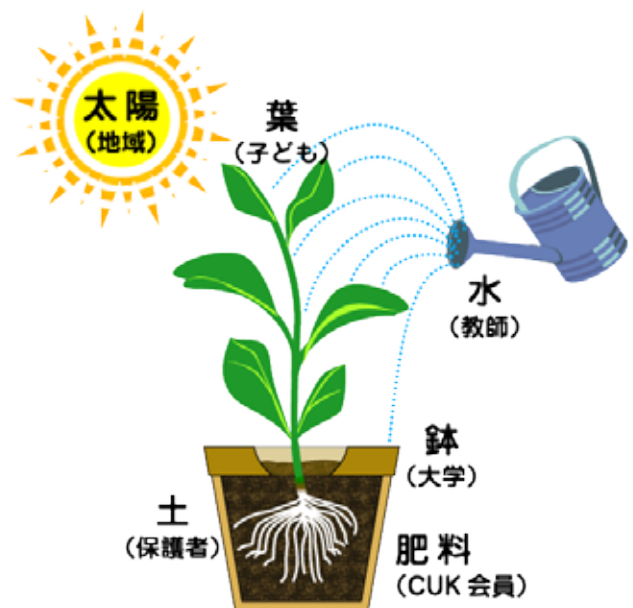
現在尚美学園大学と埼玉県立川越総合高等学校の連携によって農(Farm)、食(Food)、祭(Festa)の小江戸川越地域ブランドづくりの事業が展開知れています。CUKは「ふるさと学」の実践の場ととらえて、本事業に協力することになりました。具体的には昨年12月28日に川越市民会館で開催された里山讃歌KAWAGOE2012を後援し、来年はCUK少年少女合唱団を編成して、音楽祭に参加する予定です。また、川越総合高校農場の一角にCUK農園を借りて農業体験学習を実施します。

3) 授業活動のエクステンション化

森永エンゼルカレッジの協力により、同カレッジのインターネット放送局経由CUK授業のコンテンツを配信して、学生のみならず、父兄や祖父母三世代の利用に供し、生涯学習活動への参画をはかります。

おわりに

現在埼玉県内にCUKモデルの子どもだいがくが約20校誕生しました。鎌倉や群馬でも子ども大学が発足しました。CUKは今後も各地に子ども大学が誕生してより多くの子どもたちに未来志向型の大学レベルの教育を提供することを望んでおり、新子ども大学誕生に積極的に協力する決心をしています。



**子ども大学かわごえ (CUK) は
みんなで子どもを育てるしくみです。**

その一方、前図が表現しているように、私たち子ども大学かわごえが今後も持続的発展を実現するためには、学生や保護者、教授陣、地元教育関係者、資金支援者など大勢の方々のご支援が欠かせません。皆さまの積極的なご支援をお願いする次第です。

平成 25 年 1 月 10 日



NPO法人子ども大学かわごえ

学長 遠藤克弥

後援
埼玉県、埼玉県教育委員会
川越市、川越市教育委員会
鶴ヶ島市教育委員会、川越商工会議所
川島町教育委員会



事務局

〒350-1109 川越市霞ヶ関北 3-12-6
霞ヶ関北自治会館内
TEL 080-2053-2991 (事務局直通)
FAX 049-233-1640
URL <http://www.cuk.or.jp>
E-MAIL info@cuk.or.jp